

にってん フォーラム

いち　にーさん　しつ！
高田馬場1-23-4 ————— 長岡英司

日点みんなの集い開催

本間一夫文化賞受賞記念講演

シナノケンシ株式会社「DAISYとシナノケンシ」

DAISYコンソーシアム誕生前夜の思い出—— 河村 宏

表彰のお知らせ

ゲーミング図書館アワード 2025 優秀賞を受賞しました

生誕110年記念特別連載 創立者本間一夫の生涯④

戦後の再建・厚生省委託事業受託

川崎市視覚障害者情報文化センターだより—— 稲垣直子

シリーズ 点字で生きる～点字制定 200 年～④

点字があって今がある—— 青木こずえ

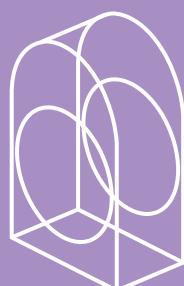
「にってんfeelハーモニー」展 開催中—— 伊藤宣真

私と日点—— 飯島毅彦

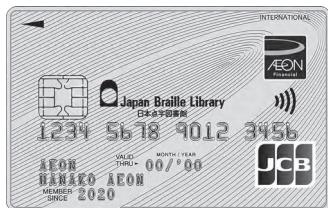
現場の小窓—— 村尾正豊

ご存知ですか？こんな商品

チャリティコンサートご協力のお礼



日本点字図書館カード 会員募集中



入会金・年会費無料

あんしんのクレジットカード
盗難保障

※カード発行には所定の審査がございます。

カードご利用金額の一部を

社会福祉法人日本点字図書館へ寄付いたします。

寄付金は、点字図書、録音図書の製作・貸出に役立てられます。

(※カード会員さまのご負担はございません)

みなさまがカード会員となり、ご利用いただくことで

視覚障がいの方々を応援できるカードです。

その他詳細・

お申込みはこちら

日本点字図書館カード

検索



■カードに関するお問い合わせはイオンカードコールセンターまで

電話番号：**0570-071-090** (ナビダイヤル／有料)

043-296-6200 (有料)

受付時間：**9時～18時** (年中無休)

お電話番号をよくお確かめのうえ、お間違えのないようご注意願います。

A E O N C A R D

聴く読書の様変わり

ながおか ひでじ
理事長 長岡 英司

当館が「声のライブラリー」の名称で録音図書事業を始めたのは、1958（昭和33）年です。当時は、オープンリール式の磁気テープに朗読を録音し、郵送で貸し出すサービスでした。開始の翌年に正式に決まった貸出規定は、「郵送料は往復とも利用者負担（郵便法の改正で1961年からは無料）、1回の貸出しは7型（リールの直径7インチ）なら3巻・5型なら6巻まで、貸出期間は往復の日数を除き1週間」というものでした。1冊の本の朗読が、テープ何巻にもなりました。私は、再生中にテープが切れたり、捩れたり、リールからはみ出たりといったトラブルに、しばしば悩まされたことを思い出します。

その後、録音テープはカセット式が使われるようになり、利便性が向上しました。そして、次の大きな変化がデジタル化です。当館は1997年に国際図書館連盟の盲人図書館専門家会議がデジタル録音システムの国際標準規格として承認したデイジー（DAISY: Digital Accessible Information SYstem）をいち早く導入し、翌年に、自館製作のデイジー規格図書の貸出しを開始しました。デイジー規格の図書は検索性に優れており、読みたい箇所に簡単に飛ぶことができます。記録媒体のCDやSDカードは長時間の録音を収められるうえ、嵩張りませんから、携帯や郵送に便利です。2010（平成22）年に開設され当館がシステム管理を担う電子図書館サピエでは、デイジー図書をオンラインで利用できます。読みたい本がサピエで見つかれば、貸出しの順番を待つことなく、すぐに聴き始められます。サピエには文字データが組み込まれたデイジー図書もあり、音声読み上げと点字変換や文字拡大を併用する読書の試みも可能です。

このように、聴く読書をめぐる状況は、デジタル化によって劇的に様変わりしました。その中核となったデイジーの開発と普及に大きく貢献したのが、昨秋に本間一夫文化賞を受賞したシナノケンシ株式会社です。同社には、視覚障害者の読書環境の更なる改善にもご尽力いただきたく、大いに期待しています。

日点みんなの集い開催

2025年11月8日（土）、この一年間に勇退された奉仕者の皆様、にってん野路菊賞受賞者、^{ほんまかずお}本間一夫文化賞受賞者をお招きして表彰式典を行いました。

にってん野路菊賞は当館の業務等へ大きく貢献してくださった個人・団体を称え、感謝を表すものです。本間一夫文化賞は創立者の本間一夫を記念し、視覚障害者の文化の向上に優れた業績をあげた個人・団体を顕彰するために創設いたしました。勇退された奉仕者ならびに受賞者の皆様のご尊名を以下に記し、心より感謝申し上げます。

◆勇退奉仕者

新井好子様	石井富美子様	岡本正様	加藤和子様	三條由美子様
新内祥子様	角野美砂子様	高木眞味子様	武田由紀子様	館内洋子様
長沢郷子様	廣瀬三樹子様	細野紀美子様	水田美美子様	横田真理子様
清瀬点訳の会様				



◆野路菊賞

第32回受賞者：竹原明樹様
たけはらあけき

始めは当館イベントの補助・誘導員として、現在はふれる博物館の説明員としてご活躍くださる竹原様は当館にかかせない人物です。同博物館の多様な企画展示内容を熟知され、時には展示に合わせた模型づくりまで行い、その丁寧な説明やお声はいつも来館者の好評を博しています。土曜日担当として博物館設立当初より1000時間以上もご尽力いただきしており、職員も感銘を受けるばかりです。



竹原明樹様

◆本間一夫文化賞

協賛：(福) 読売光と愛の事業団、(公財) 日本テレビ小鳩文化事業団
第22回受賞者：シナノケンシ株式会社様

精密モータ、ロボティクス製品、福祉・生活支援機器の開発製造を手がける同社は、視覚障害福祉分野で30年以上にわたり読書環境の充実に貢献をしてきました。



代表取締役社長 金子行宏様
かねこゆきひろ

1993年、当時主流だったカセットテープに代わる録音図書のデジタル化に着手し、アクセシブルな録音図書・電子書籍の国際標準規格であるデイジー規格の開発と実現に寄与。1998年にはこの規格に対応した世界初のデイジー図書プレーヤー「プレクストーク」を完成させ、さらに製作者向けソフトも開発し、読書の利便性を格段に向上させました。2010年に視覚障害者等のための電子図書館「サピエ図書館」が始まってからは、翌年よりデイジー図書配信サービスのシステム開発・保守を担当しています。

昨今「読書バリアフリー」の取り組みが増進し、アクセシブルな図書の役割に注目が集まる中、同社には今後もユーザーと時代のニーズに沿った製品開発が期待されます。

本間一夫文化賞受賞記念講演 シナノケンシ株式会社

「DAISYとシナノケンシー人々の希望と快適をカタチに—」

「技術単独で動くものではない。技術をリードするのは人。多くの人のめぐり逢いと支援があつてデイジー図書というのは完成したのだと思っています。」開発当時を知る池田防守氏は、このように語りました。

精密モータを手がけるシナノケンシ株式会社がデイジー規格の開発と実現、デイジー図書プレーヤーを完成させてから現在に至るまで30年以上に及びます。その開発の原点になったのは病院やホテル、デパートなどで使用されるバックグラウンドミュージック機器の技術でした。

1970年代、同社の高品質な電気機械製品は、音響機器分野で先頭を走る国内外の企業から高い評価を得ていきます。製造委託や共同開発、自社製品の展開が広がる中で、音質を保ったまま長時間再生が可能であり、従来品より小型で安価という強みを持つ音響機器が生まれました。

また、こうした機器の発展とその後のデイジー誕生の背景には4名のキーマンとの出会いが欠かせません。シナノケンシへ入社した技術者の草野一俊氏・西澤達夫氏、厚生省障害福祉専門官（当時）の寺島彰氏、東京大学総合図書館（当時）の河村宏氏です。多くの方々の力が結集し、デイジーは形となりました。

録音図書の朗読時間は、200～300ページの図書1冊で数時間、情報量の多い図書であれば20時間近くになることもあります。したがって、カセットテープからデジタル録音図書への技術発展は、視覚障害者の読書環境改善における革命でした。



(左上) 藤森洋充氏、西澤達夫氏
(右下) 元代表取締役常務 池田防守氏

繊維紡績業での創業から100年を超えて培われた技術と情熱が今では、精密モータ製品、ロボティクス製品、人工衛星用製品、「プレクストーク」ブランドの製品に活用されています。

これからもデイジーや同社の技術が、数多くの人に「知る喜び」を届け続けることを願っています。

利用者の方は、にてんディジーマガジン2025年12月号で本講演の内容をお聞きいただけます。

DAISYコンソーシアム誕生前夜の思い出

国際DAISYコンソーシアム理事 河村 宏
かわむら ひろし



阪神・淡路大震災で明けた1995年は、暖炉を囲む希望に満ちた12月の懇談で締めくくることができた。菅平高原のシナノケンシ社のロッジに集ったのは、スウェーデン、英国、デンマーク、スペイン、そして日本の視覚障害者の読書を支援する主要な図書館の代表者と、第一世代のDAISYを開発したラビリンテン社の代表者である。

同年7月には、DAISYの開発をラビリンテン社に委託したスウェーデンのTPB（国立点字録音図書館）が、ストックホルムにシナノケンシ社を招き、両社が協力して次世代録音図書の国際標準の開発と普及を目指すための会議が持たれた。この時、TPB館長のインガー氏は、両社の代表者たちを、北欧の柔らかな陽を浴びて楽しむ山荘での野外パーティーに招待した。

筆者は、国際図書館連盟の盲人図書館セクション議長として、次世代録音図書の標準化に責任を負う立場でこれらの重要な協議の場に立ち会った。今にして思えば、池田さんをはじめとするシナノケンシ社の方々とラビリンテン社のヤン社長およびDAISYの命名者であるラーシュとのビジネス・パートナーとしての真剣なやり取りを含むDAISY開発期の重要会議の合間には、ホッと一息ついて未来を語り合う場面が絶妙に配置されていた。

30年を経て、今シナノケンシ社は、再生システムの他に、JICAの支援を得てアラビア語にも対応したマルチメディアコンテンツを編集しDAISYまたはEPUBのフォーマットで出力できる製作ツールも提供している。

DAISYは世界中で既に百万タイトル以上製作され、視覚障害者をはじめとする読書が困難な人々の生活を大きく変えてきた。30年前に雪の積もる高原のロッジの暖炉の前で語り合った未来像は、翌年のDAISYコンソーシアムの結成を経て、今日の電子出版の国際標準規格であるEPUBにDAISYと同じ機能を持たせる国際標準規格であるEPUBアクセシビリティに引き継がれ、世界中の読書が困難な人々の生活を更に大きく変えようとしている。

表彰のお知らせ

長年にわたり、当館のボランティアとしてご活躍くださっている方々が、下記の大会において表彰されました。おめでとうございます。

第74回東京都社会福祉大会

知事感謝

りすうせんもんてんやくかい
理数専門点訳会シグマ様

:〈点訳〉平成12年よりプライベートサービスで130,347ページ。

会長表彰

あんどう
安藤 喜恵様 :〈点訳〉昭和58年より点訳47タイトル187巻、22,512ページ、校正14タイトル、64巻。

うえはらてんじかい
上原点字の会様

:〈点訳〉平成13年よりプライベートサービスで24,297ページ。

たかはた わすこ
高畠 靖子様 :〈製作管理〉平成17年より録音図書製作ネットワーク「びぶ
りお工房」で約250タイトルの朗読校正、編集等製作支援。

会長感謝

しき
鹿 淺子様 :〈テキストディジー〉平成26年より148タイトル、40,849ページ。

たけだ たけし
多田 武様 :〈貸出〉平成26年より点字・録音図書データのダウンロード
サービスで約50,800タイトルのダウンロード代行。

第73回全国盲人福祉施設大会

あさおか なかこ
浅岡 高子様 :〈テキストディジー〉平成21年よりテキストディジー編集363タ
イトル、103,710ページ、朗読校正289タイトル、2,364時間、他。

ふくだ ちづる
福田 千津様 :〈点訳〉平成4年より点訳70タイトル331巻、38,277ページ、校
正22タイトル、106巻。

第55回朗読録音奉仕者感謝の集い (鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会共催)

関東甲信越地区表彰

たけうち ひろみち
竹内 弘道様 :〈朗読〉昭和61年より73タイトル、595時間。

よしむら ゆうこ
吉村 陽子様 :〈朗読校正〉平成20年より113タイトル、922時間。

ふくだ えいこ
福田 永子様 :〈ディジー編集〉平成13年より182タイトル、1,556時間。

※表彰の実績は、推薦時のものです。

ゲーミング図書館アワード 2025 優秀賞を受賞しました

いとう のぶざね
本部 伊藤 宣真

当館では、1984年から、41年間にわたり「にってんゲームを楽しむ会」という視覚障害者も交えたゲーム会を開催しています。それが評価されて、このたび「ゲーミング図書館アワード2025」優秀賞を受賞しました。この賞は、ゲームの提供や利用等に優れた実績のある図書館を表彰する賞で、ゲーミング図書館アワード2025実行委員会が主催しています。

当館では1966年に用具部を開設後、初期のころから点字付きトランプを販売していました。1980年代に入り、トミー工業（株）（現（株）タカラトミー）のH・T（ハンディキャップ・トイ）研究室の星川安之氏（現共用品推進機構専務理事）が目の不自由な子供のおもちゃを開発したいとたびたび相談に来館し、視覚障害者向けバックギャモンや、カードゲームに便利なカードトレイを開発しました。また当時の用具部長がゲーム好きだったこともあり、用具部の取扱品にゲーム類が増えています。一方、H・T研究室が企画編集した弱視者用大活字本『ゲームガイドブック』が小学館から発行され、これらを紹介するイベント「視覚障害者のためのゲーム・大活字本展示会」を三省堂書店本店（神田神保町）にて1983年12月に開催しました。

そのイベントの中で、ゲームはわかったけどそれで遊ぶ場がない、という視覚障害来場者の声を聞き、星川氏は、翌年、ゲーム研究家の草場純氏を訪ねます。そして、視覚障害者のゲーム会の講師を依頼したのです。草場氏は小学校の教員を務めるかたわら自身でゲームサークル「なかよし村とゲームの木」を主宰し、古今東西のゲームを仲間とプレイし研究をされていました。

草場氏はゲーム会の趣旨を理解し講師を快諾、1984年8月には当館主催、協力トミー工業H・T研究室で「日点・ゲームを楽しむ会」を開催するに至りました。以来、新型コロナにより一時中断いたしましたが、現在まで偶数月に1回、定例でゲーム会を開催しています。トランプや専用カード、あるいは道具は筆記用具だけといったゲームなど様々なゲームを行っています。

視覚障害者が付き添いの方も含め和気あいあいとゲームを楽しむ会。これからも続けていきたいと思います。

お問い合わせ・参加申し込み等は当館わくわく用具ショップまで。

生誕110年記念特別連載○創立者本間一夫の生涯④

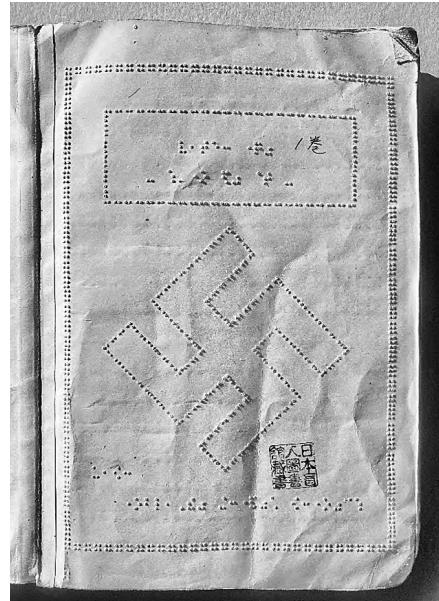
戦後の再建・厚生省委託事業受託

本間一夫記念室

ヘレン・ケラーの来日により障害者に対する社会の関心が高まった1948（昭和23）年3月、一夫は焼け野原となった敷地に実家の支援により住宅兼図書館を建て、疎開していた増毛の実家から東京に復帰、貸出を再開し、4月1日、名称を「日本点字図書館」と改めた。

東京に戻る時、蔵書の一部を実家に残してきた。増毛の実家、丸一本間合名会社は明治15年頃から約20年かけて造られた大規模な住宅兼店舗で、防火壁や石造店舗、土蔵といった不燃材建築で周りを囲むことにより中央の居宅部分を守り、大火にも焼失することなく現存した貴重な建物である。1997（平成9）年に町の所有となり、後に国の重要文化財に指定されて現在一般公開されているが、町の所有となるとき蔵の中に残してきた点字図書210冊は運び出され、郊外に新築した実家の倉庫に保管されていた。その図書は、貸出に堪えられない傷んだものもあるが、戦記物など新時代にふさわしくないという判断で残されたであろう図書もあり、粗末な製本修復材料、それぞれの図書に綴じられた一夫自筆の感謝のことばなど、当時を知る貴重な資料となっており、現在は当館で保存・公開している。

再開した住宅兼図書館は点字本であふれ、書棚の間で生活をするといった状況であったが、新しい図書館を建設するための募金活動も展開していた。一夫が新図書館について具体的にどのような姿を考えていたかが



増毛に残してきた蔵書『ヒットラー伝』
第1巻扉

わかる図面が、2023（令和5）年2月、一夫の遺品から発見された。木造2階建て、延床面積約354m²、1階北側書庫には点字本1万3千冊を収納する棚を計画していた。設計図は竹中工務店により作成され施工は松井建設に依頼する計画であったようである。しかし募金活動は成功せず、この建物は幻に終わった。

公的な助成、援助を受けるには個人経営では限界があることから、財団法人設立の認可を東京都に申請、1950（昭和25）年10月9日に認可が下りる。理事長に国立国会図書館長金森徳次郎、一夫は常務理事となる。この日が法人としての設立日である。

翌1951（昭和26）年末、当館協力者・加藤善徳は「点字本のなげき一点字本も図書である」と題し、点字図書館の現状について岩波書店発行の月刊誌『図書』に投稿をする。採用はされなかつたが、小林勇 岩波書店専務（当時）の目にとまり、翌1952（昭和27）年4月小林の突然の訪問を受ける。小林はこの方面に詳しい松本征二 厚生省更生課長（当時）に寄稿を依頼し「点字と点字図書館」を同誌2月号に掲載していた。来館した小林は点字本に埋もれて生活をする一夫らの姿に驚き、出版人として事業に協力すべきだと、以後、岩波の図書は無償で提供することを約束し、他の出版社にも呼びかけを行った。

翌1953（昭和28）年1月、朝日社会奉仕賞を受賞。当館が広く社会に知られるきっかけとなつたが、実は小林の推薦によるものだったと、30年近く後、一夫は小林の秘書から明かされた。

受賞の年、安田巖 厚生省社会局長（当時）と松本課長が来館、視察した。国立の点字図書館の計画が検討されていたのである。一般の図書館とは全く異なる点字図書館をゼロから立ち上げ運営するか、ノウハウを蓄積しており実績のある施設に委託するか、いずれかの選択に安田局長の英断が下され、1954（昭和29）年1月14日、厚生省の事業委託予算が当館に決定との電話が松本課長から一夫に入った。11月、国費による木造2階建て122m²の建物が完成、点字出版事業もスタートした。狭さからの解放と一定の収入確保に一夫は喜び、安堵した。
(つづく)

（本連載では、新資料により既刊の本間一夫の伝記内容から一部改めて記述しています）

【訂正とお詫び】 前号本連載の中で誤りがありました。9ページ、1943（昭和18）年とあります、1941（昭和16）年の誤りでした。訂正しお詫び申し上げます。

川崎市視覚障害者情報文化センターだより

就任のご挨拶

副センター長 稲垣 直子
いながき なおこ

10月より、川崎市視覚障害者情報文化センターの副センター長を務めることになりました。9月までは千葉県で視覚障害者支援に携わっておりましたので、これまでの歩みを振り返りながら自己紹介させていただきます。

私が歩行訓練士として入職した1994年当時、千葉県内には生活訓練を受けられる場所がなく、先輩の歩行訓練士が千葉市近隣の方を対象に自宅訪問による訓練を始めていました。私は2人目の担当として配属されました。その後、当事者団体の働きかけもあり、1995年に船橋市、千葉県、千葉市が視覚障害者の自立支援事業を開始し、在宅で歩行訓練や点字・パソコンなどのコミュニケーション訓練、日常生活訓練が受けられる制度が整いました。続いて1998年には市川市と松戸市、2008年には柏市が独自に事業を開始しています。

私は制度が始まったばかりの船橋市、続いて市川市の事業を長く担当し、事業の拡大に伴い8名に増えた歩行訓練士のまとめ役としての業務にも携わりました。この約20年間には、目が不自由になり途方に暮れていた方が訓練を通じて少しずつできることを増やし、自信や希望を取り戻す姿や、当事者の会で仲間と支え合いながら生き生きと活動する姿も目にし、支援者としてだけでなく人としても多くの学びを得ました。その後は、盲重複障害の方が多く生活する施設に異動し、9月までサービス管理責任者として勤務しておりました。

もう一度地域での支援に関わりたいと思っていたところ、ご縁があり川崎に参りました。このセンターは、行事が多く来所の機会が豊富であること、医療機関との勉強会などで連携がしっかりとっていること、ボランティアや関係機関との協力が円滑であること、さらに訓練事業・図書館事業・用具事業が一体となり情報提供がしやすいことなどが魅力だと感じています。長年の積み重ねを肌で感じながら、この場で仕事ができることを大変嬉しく思います。これからも皆さまのお声に耳を傾け、より良い支援を目指してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

日本点字図書館は、指定管理者として、川崎市視覚障害者情報文化センターを運営しています。

シリーズ 点字で生きる～点字制定200年～④

点字があって今がある

東京ヘレン・ケラー協会点字出版所 青木 こずえ

2歳半で見えなくなった私が点字を習ったのは、川崎市視覚障害者情報文化センターの前身である川崎市盲人図書館でした。保育園の年長の時で、楽しい先生とおやつのおかげで読み書きをすぐに覚え、公立の小学校に入学。先生が50音表を見ながら作ってくれたテストの点字が縦書きであろうと動じることなく、周りに点字を使う人がいない中、のほほんと6年間を過ごしました。初めて同世代の点字使用者と接したのは中学受験の時でした。私以外の12人が一齊に点字を打つ音は「全員正しい答えを書いている音」に聞こえ非常に焦りました。

私も少しは正しい答えが書けたのか、入学した盲学校ではいろいろなことを学びました。自分の点字の書き方が自己流だと気づいたのもこの時です。点字盤で速く点字を書く人は1の点から番号順に打っているのに、私は「め」の字を「1 2 3 6 5 4」と円を描くように打っていました。それが効率的だと思っていたのです。

受験の時に刺激を受けて「のほほんとはしていられない」と思ったはずなのですが、人は簡単には変われないようで、高校までの6年間の盲学校生活もマイペースのまま過ぎていき大学生になりました。点字のルールに深く興味を持つようになったのは、いろいろな大学の点訳サークルと交流する中で点訳合宿に参加したのがきっかけでした。講師の方が要点をかいづまんで分かち書きなどについて話されるのを聞いて、点字を改めて学び直すことができた気がします。

そして現在は仕事で点字と関わる日々。大好きな点字なのに、仕事で読むとなると考えさせられることが多く悩みは尽きません。そんな毎日ですが、先日晴眼者の男性職員がこんな回文を作ってくれました。「ブライユわ かわゆいラブ」「いい わかちがき すき がち かわいい」こんなことをギャルや女子高生が話していたらと想像すると楽しくなり、なかなかの洒落っ気に感心していました。私も柔軟な発想でこれから点字に向き合っていきたいと思います。

ふれる博物館第17回企画展

「にってんfeelハーモニー」展 開催中

ふれる博物館館長 いとう のぶざね
伊藤 宣真

日本点字図書館附属池田輝子記念ふれる博物館の第17回企画展は「にってん feel ハーモニー」です。

テーマは楽器。名前も知っているし音色も知っているけれど形は知らない、そんな楽器を中心に、西洋音楽楽器と民族楽器を集めました。

共催の大内進先生の「手と目でみる教材ライブラリー」からはヴァイオリンやリコーダー、ピアノの構造模型などを。筑波大学附属視覚特別支援学校からはチェロ、コントラバス、トランペット、クラリネットなどを。武蔵野音楽大学楽器ミュージアムからはバリンビン（フィリピン）、アンクルン（インドネシア）などの珍しい民族楽器をお借りし、個人からの提供も含め約30点の楽器、その他資料を展示します。

今回は模型でなく現物展示が多く、大きさや形だけでなく重さも体験できます。また、民族楽器は打楽器が多く、来場者自身が音を出して楽しむことができます。

会期は3月14日土曜日まで。開館日は祝日を除く水曜日、金曜日、土曜日です。

【お申込み・お問い合わせ】

※事前予約制です

090-3247-7290 (10時～16時)

(ふれる博物館開館日のみ)

03-3209-0241(代) (9時～17時)

(その他の日、本館代表番号)



アンクルン（インドネシア）



私と日点

いいじま たけひこ
利用者 飯島 賀彦

2023年の夏、日点の一階のグッズ販売所で白杖を買い替えようとしていた時、職員の方から携帯の訓練、パソコンの使い方の指導も受けられますよ、と言われました。それがきっかけでその年の秋、自立支援の門をたたくことになりました。

まずは携帯の扱い方、電話の掛け方、受け方、メールの送受信などの訓練からスタートしました。ほとんど携帯を使用できなかった私にとっては一筋の光を見た思いでした。5年前には目の状態が仕事にも影響し、社員にフォローしてもらっていたのですが、パソコンの操作や会社通勤もままならなくなりリタイアしました。見えない、見えにくい状況で外に出ることも少なくなり、人と会うことも少なくなり携帯やパソコン等もほとんど触らなくなりました。

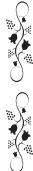
訓練指導をする先生が視覚障害者であるのにもかかわらず、ものすごいスキルの高さに驚愕しました。根気強く丁寧に教えていただきました。次第に訓練を受けるのが楽しくなり携帯が使えるようになり、家族、友人に電話もメールもラインもできるようになりました。とても嬉しく感じました。先生との訓練中、会話もはずみ笑い声も大きく隣の席の方にも迷惑をかけていいかと案ずるほどでした。

白杖の訓練も家から最寄りの駅やコンビニなど目的にあわせて根気強く丁寧に指導をしてくださいました。杖の持ち方、杖の振り方も最初は自己流でやっていましたが、先生の指導を受けるたびに道の状態や町の様子を感じ歩くことが楽しくなってきました。携帯やパソコン、白杖、サピエ図書館等の指導とともに色々と情報を得ることができるようになりました。

目が見えていた時に戻ったのではなく新たな世界に足を踏み入れた感じです。これは日点の先生方の御指導がきっかけでそのチャンスを得ました。この2年間は人生観を変えうる時間でした。これからが楽しみです。ありがとうございました。

不安に寄り添い、安心につなぐ用具サポート

用具事業課 村尾 正豊



日本点字図書館用具事業課には、日々さまざまなお客様が来館されます。「点字図書館」という名称から点字図書の施設と思われがちですが、読書用具の紹介から生活訓練、歩行に関する相談まで、視覚に不自由を感じ始めた方を総合的にサポートする窓口となっています。

特に近年は、東京眼科医会と連携して発行される「スマートサイト」をきっかけに来館される方が増えました。医師から「白杖を持つように」と勧められた方、ルーペや拡大読書器を見に来た方、将来に備えてどんな支援があるのか情報を求めて来た方など、その理由は実にさまざまです。

なかでも白杖については、心理的なハードルを感じる方が多くいらっしゃいます。安全のために必要だとは理解していても、「白杖を持つ＝視覚障害者であると周囲に示すこと」への抵抗が強く、特に近所の目が気になるという声もよく聞きます。先日来館されたご家族もその一例でした。ご本人は医師から白杖を勧められたものの、気持ちが追いつかず戸惑いが大きい様子でした。一方、支えたいと願うご家族は「安全のために持ったほうがいい」と前向きに話されていましたが、ご本人は涙ぐむほど悩み、その日は購入を見送って帰られました。その際、私はどのように声をかけるべきだったのか答えが見つからず、ただ見守ることしかできませんでした。

後日、歩行訓練士に相談したところ、「まずは白杖を“お守り”と思って持ってみてはと伝える」とアドバイスをもらいました。災害や混雑など、いざという時に白杖を持っていることで周囲の支援が得やすくなる。普段はカバンにしまっておき、人混みの多い場所だけ使うという提案なら、心理的負担が軽くなるとのことでした。

用具を買いに来る方の背景には、それぞれ深い思いや不安があります。用具事業課わくわく用具ショップでは、そんな一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、安心につながる接客を心がけています。

ご存知ですか?

こんな商品

わくわく用具ショップより、どなたが使っても便利な新商品をご紹介いたします。ウェブショップからもお買いができます。ぜひご利用ください。
お問い合わせ 03-3209-0751
URL <https://yougu.nittento.or.jp/>

ベジタブルスチーマーベジスチ グリーン

[大きさ] (幅) 180 × (高さ) 85 × (奥行) 144mm

[重さ] 220g

[販売元] 株式会社エヌ・エレファント

[価格] 1,100 円 (税込み)



レンジ調理に使用できる満容量 1.5 リットルの立方体の保存容器です。中に水切りのザルがついており、野菜などを蒸す、水を切る、水にさらすなどの調理や下ごしらえがこれ一つで行えます。

にんじん、じゃがいも、ブロッコリーなどの野菜を蒸したり、

既製の肉まん、しゅうまい、ごはんの温めなおしをしたり、レンジ調理後の食材を冷蔵庫で保存することもできます。

フタには圧力調整調理弁がついているので、容器内の圧力を自動で調整でき、ゆでや蒸し調理が上手にできます。保存容器の底面には、エンボス加工という凸型の模様が施されており、ザルを取り外した容器に食材を直接入れてもくつきにくく仕様になっています。

チャリティコンサートご協力のお礼

昨年12月13日（土）に上野の東京文化会館にて開催しました第23回本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサート「室内楽の愉しみ」に多くのご協力を賜り、誠にありがとうございました。

澤 垣樹さんのヴァイオリン、澤 和樹さんのヴィオラ、鳥羽咲音さんのチェロ、そして菅田利佳さんのピアノが響き合う瑞々しい演奏に会場は終始温かな拍手と感動に包まれました。ご支援ご来場いただいた皆様、ならびにご協賛、ご後援いただいた皆様には、心より御礼申し上げます。

次回のチャリティコンサートは、本年12月12日（土）にピアニストの草 冬香さんをお迎えします。会場は練馬文化センター小ホール（練馬駅北口より徒歩1分）です。開催の際にはまた多くのご来場をいただけますと幸いです。

についてんフォーラム〈第138号〉 2026 冬

発行 2026年1月25日〈年4回発行〉

発行人 長岡英司

編集人 立花明彦

発行所 社会福祉法人日本点字図書館

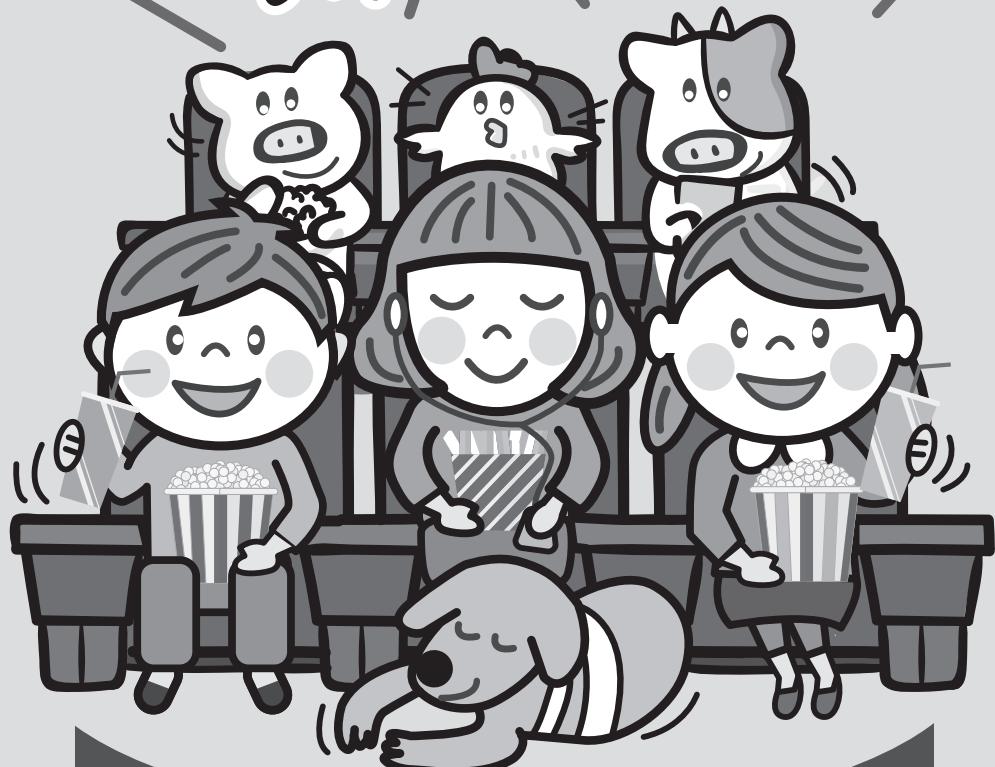
〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4

電話03-3209-0241(代) FAX03-3204-5641

URL <https://www.nittento.or.jp/>

*本誌の記事を撮影したり光学的に読み取ったりして、SNS等で発信、ウェブサイトへ転載することを固くお断りします。

ワク! ワク! / ドキ! ドキ!



あなたと映画を観たい。

映画みにっこ!

「スマホで聞く音声ガイド」



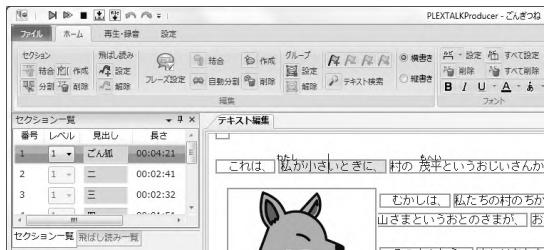
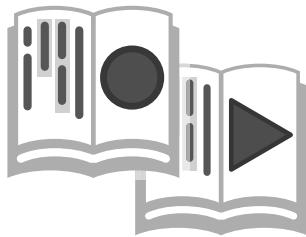
NPO メディア・アクセス・サポートセンター

〒106-0041
東京都港区麻布台2-3-5 ノアビル1階

MASC 検索



音声 / テキスト / マルチメディア DAISY 製作ツール



PLEXTALK Producer

で作れる 新しい DAISY のカタチ

音声DAISY … 録音図書の標準方式

- テキスト文書から音声合成で図書が作れます
- CD書き込み機能で、直ぐに貸し出しできます

テキストDAISY … 音声のない DAISY

- データ容量が小さく、受け渡し時間が短縮できます
- ルビ振りにも対応し、正しい読みも担保できます

マルチメディアDAISY … 音声とテキストのマルチメディア

- ディスレクシアなど合理的配慮の利用対象者が広がります
- 既存の音声を使ってマルチメディア化もできます

90日間無料操作体験版は www.plextalk.com からダウンロードできます

サポート OS	Windows11、Windows10以降 ※ 各OSは日本語のみサポート ※ ARM版Windowsは非サポート
プロセッサ	Intel Core i3 以上推奨
メモリ	4GB 以上推奨

レイアウトツール 文字化ツール(OCR) でデータ取り込みが楽々！

販売元：
シナノケンシ株式会社

〒386-0498
長野県上田市上丸子 1078

PLEXTALK Producer 簡単取り込みセット ¥88,000 (税込)

製品情報、ご注文はホームページ：

www.plextalk.com

PLEXTALKProducer 単体 ¥49,500 (税込) 簡単取り込みオプション ¥38,500 (税込)

※ Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。Intel Coreは米国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

※ 記載の情報は2025年9月のものです。機能および外観デザインなどは、性能向上その他の理由で、予告なく変更することがあります。PLEXTALK、PLEXTALKロゴはシナノケンシ株式会社の商標です。